

小松市内の全小中学校に贈られたものと同型のフラワーボックスと、開発した池上和美さん。花とともにホワイトボードで連絡なども見ることができると小松市今江町で



## 植えて育てて 花と会話

### 小松の企業 プランターを全小中に

土木資材などを手掛ける「イケガミ」（小松市今江町）は、自社で開発した花を植えるプランターとホワイトボードを組み合わせた「フラワーボックス」を小松市内の全小中学校三十五校に一基ずつ寄付した。

フラワーボックスは中央に横長の木製プランター、上部はホワイトボードが置かれている。木製プランターは正面がくりぬかれており、飛び出す絵本のように花を楽しむことができる作りになっている。ホワイトボードは、日々の連絡や行事などを書き込めるように

取り付けた。高さは約一・五メートルで、子どもの目線で見やすい設計になっている。

同社の取締役池上和美さん（五十）と社員杉林勝次さん（五十）が昨年開発し、市内のこども園などに贈ったところ好評だったため、市内全ての小中学校への寄贈を決めた。池上さんは「日々のコミュニケーションとともに花を楽しんでもらい、教育に役立ててもらえたらうれしい」と願いを込めた。

市と市教委は寄付を受け、同社に感謝状を贈る。

（太田博泰）

竹割りまつりなど  
県内祭事の版画展

小松の日野さん

小松市大領町の木版画家日野理雄さん（モシ）の作品展が、同市本折町の北陸銀行小松南支店で開かれている。七月三十一日まで。

県内の祭りを中心に描き続ける日野さんの作品十点が並ぶ。加賀市大聖寺敷地の菅生石部神社の冬の風物詩「竹割りまつり」で雪中威勢よく竹をたたきつける男たちの姿など、県内各地の祭りを生き生きとした色合いで美しく表現している。

日野さんは「県内ゆかりの作品を多く並べたので、なじみ深く感じてもらいたい」と来場を呼び掛けている。

（太田博泰）



祭りなどを生き生きと描いた  
木版画作品―小松市本折町で